



2022年7月4日

ブラジル大統領選の見通し～第2次ルラ政権誕生か

公益財団法人 国際通貨研究所
調査部 上席研究員 森川 央

ルラ圧勝の勢い

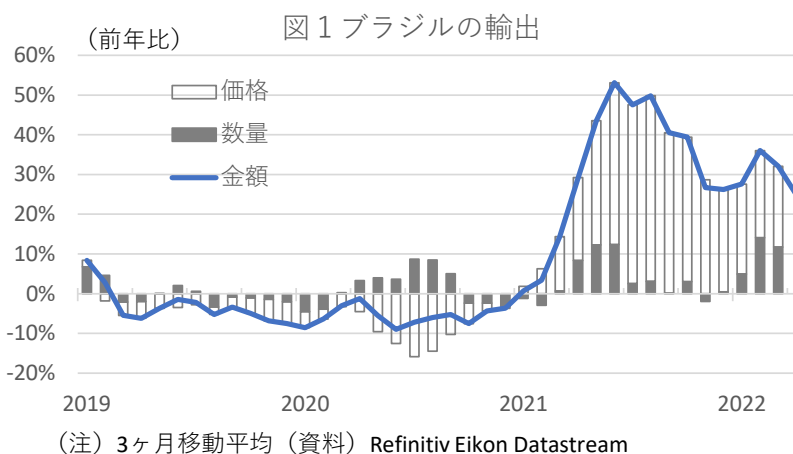
6月22～23日に実施されたダッタフォーリャ社調査¹によると、支持率でトップに立ったのは元大統領のルラ候補（労働者党・PT）で47%の支持を集めた。現職のボルソナロ大統領の支持率は28%で2位となったが19ポイントの大差をつけられている²。

ルラ氏の支持率は他の候補の支持率を全て合計したものを上回り、有効票の53%を占めている。ブラジルの大統領選挙は、1回目の投票で有効票の過半数を得ることができれば、当選が確定する。過半数に届く候補者がいない場合は、上位2名による決選投票に進むが、この調査結果の通りなら一次投票で勝つ見込みだ。そして、決選投票になった場合でも、ルラ氏が57%対34%でボルソナロ大統領に勝つ結果になっている。

経済不振が現職に逆風に

ボルソナロ氏への支持率が低迷している背景には、景気低迷・インフレ高進がある。2021年、世界経済の回復がブラジルにとって追い風となり、資源を中心に輸出は前年比39.1%と急増していたが、昨年後半から徐々に伸び率は鈍化してきている。

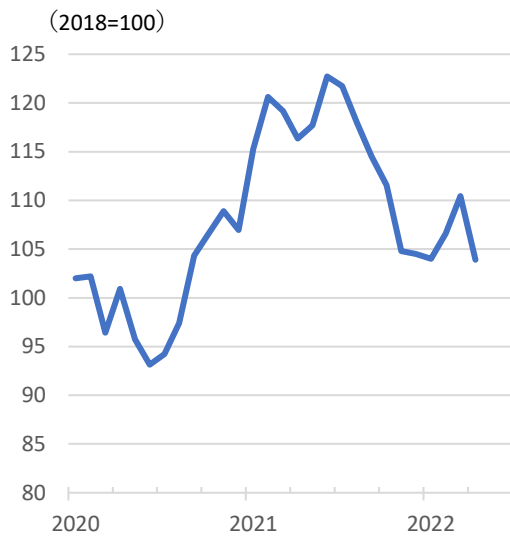
足元では輸出数量が前年割れに転じてきており、輸出のGDP押し上げ効果は薄れてきている。



¹ 2022年6月25日付ブラジル日報

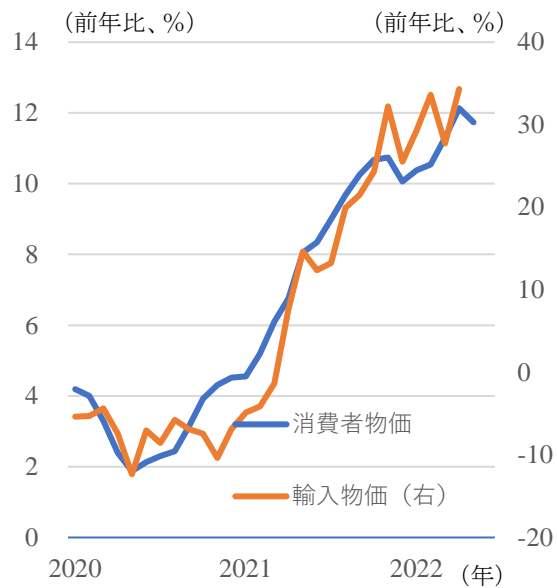
² 3位以下はシロ・ゴメス氏（民主労働党・PDT）8%、アンドレ・ジャンーネス氏（アヴァンテ）が2%、その他3候補者がそれぞれ1%台で続いている。

図2 交易条件指数



(資料) Refinitiv Eikon Datastream

図3 物価指標



(資料) ブラジル中央銀行、地理統計院

もちろん、価格上昇による所得増効果は続いているものの、一方で輸入品も価格が上昇してきており、交易条件は足元でむしろ悪化している。

更に、景気の足を引っ張っているのがインフレ率の上昇である。ブラジルの消費者物価は、前年比 11.7% (5月) となっている。4月の同 12.1%からはやや低下したものの、輸入物価の上昇率は前年比 30%前後で高どまりとなっており、消費者物価上昇率がピークをつけたとは即断できない。

高いインフレ率は実質所得の減少を招いており、1-3月期の実質所得は前年比 6.7%減と低迷している。

逆風下の船出となる次期政権

ルラ政権下の 2003 年から 2010 年は中国経済が存在感を高めていた時期である。8 年間で、ブラジルの実質成長率は資源需要の拡大に助けられ、2008 年のリーマン・ショックはあったものの平均 4.1%に達していた。ルラ政権の経済政策については、貧困層対策の充実など手腕も評価すべきだが、高成長は良好な国際環境という「強運」に恵まれた面も大きかった。

同じ労働者党でルラ政権を引き継いだルセフ政権は、ほぼ同じ政策をとっていたが世界経済の成長率が鈍化したため、実質成長率は平均 0.4%にとどまっている。「つなぎ」のテメル政権を経て、ボルソナロ政権下の実質成長率は平均 0.6%と低迷している。

表1 歴代政権と実質成長率

	時期	平均成長率
ルラ政権	2003-2010	4.1%
ルセフ政権	2011-2016/8	0.4%
テメル政権	2017/8-2018	1.6%
ボルソナロ政権	2019-	0.6%

(資料) ブラジル地理統計院

景気低迷と高インフレに対する不満が現政権への批判票となっており、10月2日に実施される大統領選挙までにボルソナロ大統領が支持率を回復させることは難しい。ルラ氏の優位は揺るがないだろう。

しかし、次期政権をとりまく環境は、前回のルラ政権時と様変わりしている。世界はまだ新型コロナ禍から回復していない。変異株の脅威は再び高まっている。ウクライナ戦争も長期化している。そしてブラジルでも高齢化が進行しつつある。第2次ルラ政権が成立した場合は国民の過大な期待を背負っての船出となるだろう。

図4新型コロナ流行状況



(資料)ロイター

以上

Copyright 2022 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: Nihon Life Nihonbashi Bldg., 8F 2-13-12, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo 103-0027, Japan

Telephone: 81-3-3510-0882

〒103-0027 東京都中央区日本橋 2-13-12 日本生命日本橋ビル 8 階

電話 : 03-3510-0882 (代)

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <https://www.iima.or.jp>

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくご申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。